

役員会だより(2月25日、ハイブリッド形式により開催)
 事務局から令和7年度決算見込みの報告や、令和8年度事業方針及び事業計画案が示され、議論した。事業方針では、「溶接ヒュームに関する健康障害防止措置の推進」については「定量的フィットテストの貸出事業」を、また「図面問題見積条件書特記事項の普及啓発」を引き続き促進することとした。「組合の収入のあり方についての見直し・検討」及び「役員体制のあり方についての検討」については、検討結果を次の総会で諮ることとした。具体的な事業計画については、総会は5月21日(木)、HOTEL PLUMMにおいて開催することとし、総会時の交流会については、賛助会員をお招きして開催することが決まった。総会時の研修会のテーマについては検討中。また、令和9年新年会は1月21日(木)、HOTEL PLUMMにおいて開催することとした。

青木博文先生ご逝去

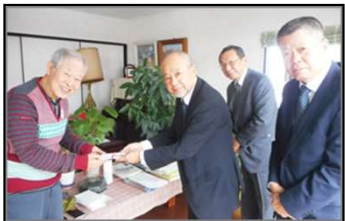
青木博文先生(横浜国立大学名誉教授)が2026年1月26日にご逝去されましたので、謹んでお知らせいたします。(享年85歳)

青木先生は全鉄評の性能評価工場審査の評価員を永く務められ、当組合では青木先生に主に工場認定に係るお話を役員が伺う技術懇談会を、2010年(平成22年)から2018年(平成30年)まで年1回、計9回開催しました。

最後の技術懇談会(2018年9月3日)では、鉄骨構造のすばらしさ、鋼材の進化・構造計算の進歩の状況、品質管理と工場審査、鉄骨製作資格の重要性など、鉄骨に関する総括的な講義をしていただきました。



2020年(令和2年)の秋の叙勲で、教育研究への功績により瑞宝中綬章を受章され、加藤卓郎元理事長、岸部直喜前理事長、石井二三夫理事長がご自宅を訪問し、お祝いをお渡ししました。



組合の技術的な向上に大きく貢献されましたこと、あたらめて心よりお礼申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。



**キクシマ新体制発足 協立工業へ
 横浜×長野の二拠点体制に 「1+1=3の挑戦」**

2026年2月1日、キクシマ鉄構部門とグループ会社である長野県の協立工業株式会社が一体となり、社名を「協立工業株式会社」へ統一し、本社を横浜に置く新体制が発足しました。

新生・協立工業株式会社は、横浜本社・長野拠点による二拠点体制を確立し、それぞれの強みを合わせることで、単なる足し算ではなく「1+1=3」となる新たな価値を生み出し、さらなる飛躍へとつなげていきたいと考えております。

■ 横浜=明るく挑戦する“Mグレード”

横浜拠点は、都市部に根ざした機動力と柔軟な対応力を強みとする“Mグレード”工場。

活気あふれる現場力とスピード感を武器に、多様なニーズへ前向きに挑戦する“明るさ”が特長です。



■ 長野=真面目に積み重ねる“Hグレード”

一方、長野の協立工業は“Hグレード”工場。堅実で誠実なものづくりを徹底し、高度な品質管理体制のもと、確かな技術を積み重ねてきました。最大の強みが、その“真面目さ”です。

明るく挑戦する横浜と、真面目に磨き上げる長野。性格は違えど、目指す方向はひとつです。鉄骨製作・加工分野における総合力をさらに高め、設計から製作、納品までを安定的かつ柔軟に対応できる体制を構築。両拠点の技術力、品質管理、現場対応力を融合させることで、これまで以上に信頼されるグループへと進化します。



キクシマグループは「人と街が輝く未来のために」という理念のもと、安全と品質を何よりも大切にしながら、鉄骨業界の発展と社会インフラづくりに貢献してまいります。

二つの力が重なり合い、新たな価値を創り出す一これ、キクシマグループの新たなスタートです。

全鉄評ホームページ更新のお知らせ

全鉄評から、工場審査申請書式及び記入例を修正したので、2026年度申請分から修正後の書式をお使いくださいとの連絡がありました。

修正内容は、材料管理責任者及び外注管理責任者の雇用保険通知書貼付欄の追加です。

全構協と各都道府県青年部会長との意見交換会の開催

2026年2月18日(水)、鉄鋼会館において、標記意見交換会が開催され、佐原工業(株)の鈴木青年部会長が出席した。